

け城をありーと云傳へーとや

羽源記曰古光禰といふー人玉目とて
ありをーに羽源記の叛逆よりて南
を逃れ出大中治といふ所て後切ーあり
り々に時の関白藤下公遠の中を出羽玉目
よちされて下あふ是八十八代 後深草院
御宇とりやと云く羽源記の系よ委注され
ハ畧之淺川但大中治村南の方山陽の田畠
よ大石あり玉目け城の上よて切後ーあり
ーとて古人伝ふの後切石といふ是八十八代

後深草院の御宇といふ是東がーとてに支
より以前の事なりー八十二代 後鳥羽院
文治年中頼朝の始て花園御保よ地頭を
補せしむる所は花園（い）武敏家を下ーて二
城をもちーめあふと見へーより二城ハ玉目
の居城なれを別に大山よ二所館を據て妻子
とたよ佐ー南城よハ敏士の内より城代を
至又時とーてハ嫡子お出ても後をられー
と見へーより武敏家代々の内ハ代長重を大
梵寺出羽とと稱しー二十一代 兼光を山城守